

中学・高校・大学バトン部 先輩から後輩へ、脈々と受

2013年12月7・8日に千葉県の幕張メッセイベントホールで開かれた

「第41回バトントワーリング全国大会」に中学、高校、大学のバトン部が選抜され、日頃の練習成果が結実し、好成績を残しました。

先輩が後輩の指導を行うことが伝統的に引き継がれている金城学院バトン部。その練習の様子や、後輩の指導を行う先輩たちの思いについてご紹介します。



高校生チーム(金賞受賞)



中学生チームの演技(銀賞受賞)



大学生チームの演技(最優秀賞受賞)

バトン部で学んだ精神を今、 私たちが繋いでゆく

金城学院バトン部では伝統的に中学・高校・大学のいずれもOGがコーチをしています。「礼には始まり礼に終わる」という精神を大切に、厳しい練習以上に礼儀を重んじるバトン部。中学・高校・大学ともに指導をしているコーチによると、心からの挨拶や感謝の気持ちをまっすぐ伝えられるようになるまでには長い時間がかかることから、後輩たちの成長の節目ごとに指導者としての心がけも変化すると言います。「中学生には決して押しつけではなく一人ひとりの成長を根気よく待ちながら相手を思いやる心を育て、高校生には

素直な気持ちで相手を受け入れ、常に誰かのために何かができる人になることを教えます」とも話します。

大学生になると後輩指導の中から自らを振り返り、刻んできた歴史におごった気持ちになることなく、社会貢献ができる人になる準備をしていきます。このようにバトン部で育んできた精神を、次の世代に伝えていくことこそが上級生の大切な役割です。

華やかな舞台裏にある 日々の地道な努力

バトン競技は華やかなスポーツではありますが、その裏側には日々の地道な努力があります。筋力トレー



田島知奈さん

ニングや基礎トワールに加え、ダンスやバレエなどのボディワーク、また人の心を惹きつける表現力を磨くことも必要

です。

ソロの大会では仲間と競い合いながら、高い技術と強い精神力を養います。またチーム演技では、上級生は下級生を慈しみ、下級生は上級生を慕い敬いながら輪となって、ご指導くださった顧問の先生方や支えてくださった家族に、心から感謝の気持ちを持つことをともに学びます。

がそろって全国大会で活躍! け継がれる技と心



大学生のチーム名「White Wall」には白壁を支えるという意味が含まれています

金城学院のバトン部は多くのOGの方々に支えられています



中学・高校・大学の合同練習

現役のリーダーとして中学生を指導する大学4年生の田島知奈さんは「大学生まで現役としてバトンを続けられるとは思っていませんでした。今は多くの後輩たちにとって、大学生の演技も指導のひとつであると責任を感じつつ練習に取り組んでいます。先輩たちの輝く後ろ姿を追って10年の月日が過ぎました。今後は



岡本真由子さん

後輩が私たちの姿を見て成長してくれると嬉しいです」と話します。また高校バトン部のキャプテンを経験した大学1年生の岡本真由子さんも「高校2年生で次年度キャプテンを任せられ、不安な気持ちでいっぱいだった私に、前年度キャプテンがご卒業されるまでたくさんのことを誠心誠意教えてくださいました。その伝統を必ず後輩へ繋がないでという恩返しの気持ちで、今指導を行っています」と言います。さらに2人とも「金城学院バトン部には中学・高校・大学ともずっと面倒を見

てくださる大先輩がいらっしゃいます。その方々のおかげで今の私たちがいます。こうした先輩方への感謝の気持ちが大会での成績に繋がっているのだと実感しています」と話します。

今年も中学・高校・大学が力を合わせて伝統を守るべく、全国大会に挑みます。明日の自分、1年後の自分、未来の自分を憧れの先輩に重ねながら今やるべきことを着実にこなしていく金城学院バトン部。今また新たな歴史の一步を刻みます。